アジア・アフリカ地域研究 第23-2号　2024年3月
Asian and African Area Studies, 23 (2), 2024

フィールドワーク便り

クルアーン学校の生徒として生きる

──ニアメで小さな先生と過ごした日々──

芦　田　瑞　歩*

首都ニアメでの風景

「アイシャ！キン　タヒ　マカランタ？」朝8時40分ごろ，知り合いの女性が道の反対側から，ニジェールでの私の名前「アイシャ」を呼んで「アイシャ，マカランタに行くの？」と声をかけてくれる．マカランタとは，ハウサ語でクルアーン学校のことをさし，このかけ声はクルアーン学校へ通う朝の恒例の出来事だ．

西アフリカに位置するニジェールは，とても暑い国である．私が滞在していたのは雨季であったが，基本的に日中の気温は40℃まで上がる．そんな首都ニアメの滞在する家の敷地から一歩外へ出ると，子どもたちの楽しそうな声が聞こえてくる．家の前でサッカーをしたり，小さな子どもがさらに小さな赤ちゃんを抱っこしていたり．それもそのはず，ニジェールは，女性が一生に産む子どもの数を表す合計特殊出生率がおよそ7.0と世界で出生数の最も多い国である［UNICEF 2021］．通りを歩いていても，市場にいても，とにかく子どもがたくさんいる．

ニアメでの光景にもうひとつ特徴的なことがある．それは，クルアーン学校の存在である．国民の95％以上がムスリムであるニジェールには，クルアーンやイスラームの知識を学ぶマカランタがモスクや小・中学校の敷地，市場のなか，住宅街にあり，近くに行くと子どもたちのクルアーンを暗唱する声が聞こえてくる．私は2022年9月，数あるクルアーン学校のうち一校に入学したのだった．

小さいけれど偉大な生徒たち

2023年6月26日，およそ半年ぶりにニアメに帰ってきた．今回の滞在は12月中旬までを予定していた．ニアメに到着した日，電話代とインターネット代をチャージするためのカードを買いに家からほど近い雑貨屋に出かけた帰り，偶然ある人と再会した．昨年の調査時に出会った同じクルアーン学校に通う女子生徒のAちゃん（14歳）である．Aちゃんは中学生でありながら，私にとっては偉大な「先生」であった．

彼女は中学校に通っているために前回の調査時には数回しか会えなかったが，一緒に出席できたときには，アラビア文字の書き方や

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

発音を教えてくれた．フランス語を話せる数少ない生徒でもあり，私の大学院生という立場やクルアーン学校に通う目的を理解して応援してくれた．お互いに再会を喜んでまもなく，A ちゃんが，「マカランタにまた通うよね？タバスキ（イスラームの犠牲祭）休暇が明けた土曜日から授業が始まるよ．また一緒に通おうよ」と言ってくれた．調査を後押ししてくれるこの言葉に，私の居場所ができたような気がして，ほっとした．

クルアーン学校に通う

そもそもクルアーン学校に入学したのは，自ら生徒になることで子どもたちの学びをより深く知りたかったからだ．しかし入学した当初，突然日本からやってきて，ムスリムでもない私がクルアーン学校に入学することは，決して容易ではなかった．

2022 年 9 月 21 日，クルアーン学校 X 校（以下，X 校）への入学が許可されたその日，そこには，狭い教室に教師ひとりと男女あわせて 75 人の生徒が大きな声でクルアーンを暗唱していた．この光景に，圧倒され，おじ気づいてしまった．

生徒たちも，また見知らぬ外国人である私を怖がった．そして地域の人々のなかにも，ムスリムではない人がクルアーン学校に通うことに，疑念を抱く人や私のヒジャブ姿を面白がる人も少なくなかった．

緊張と不安を抱いて迎えた初日の 9 月 26 日，朝 8 時 50 分に授業が開始した．授業が終了したのは 11 時．始めから終わりまで，クルアーンの暗唱だった．見学した日に見た光景と同じである．「気づいたら，授業が終わっていた」というのが実感であった．70 人の生徒がぎゅうぎゅうづめに座って，暑さに耐えた 2 時間でもあった．

授業中，多くの生徒が後ろを振りかえって私を見つめ，不思議がり，そして怖がっていた．それでも授業が終わるころ，隣に座っていた女の子が，「授業は終わりだよ．また明日ね」と，にっこりと微笑みながら話しかけてくれた．この女子生徒がまさしく A ちゃんだった．彼女のおかげで，ずっと緊張していた気持ちが少しほぐれた．

クルアーン学校 X 校の授業

X 校は教室がひとつのみで，黒板を前にして，中央の柱を境に右側に女子，左側に男子が床に座っていた（写真 1）．生徒は，2，3 歳から 15 歳ぐらいまでで，幼い生徒が前に座り，年齢が上がるにつれて後方に座る．私は教室右側の最後列のはしに座った．A ちゃんが通学する日は，私の左どなりが A ちゃんの定位置だった．その隣には，A ちゃ

写真 1　クルアーン学校 X 校の教室内部

んの中学校の同級生 B ちゃん，私の前には 10 歳の C ちゃんと 12 歳の D ちゃんが座るというのがお決まりの座席位置だった．彼女たちはみんな，私の小さな先生たちである．

ニアメ市内の小・中学校はおおよそ 7 月から 9 月が長期休暇であり，X 校も 10 月から 6 月までは，平日に小・中学校の授業があることを考慮して土曜日と日曜日のみの開校であった．長期休暇中は木曜日と金曜日以外の週 5 日の開校で，出席する生徒の人数も 60 人から 70 人ほどであった．10 月に入ると，およそ 40 人が出席していた．

一日の授業は，70 分ほどのクルアーンの暗唱とアラビア語の授業が 50 分ほどで構成されていた．授業の開始と同時に，生徒たちによるクルアーンの暗唱が始まり，教師の先導につづいて，生徒が復唱する．全員での暗唱後，挙手する生徒や，教師よって指名された生徒が独唱する．

アラビア語の授業では，黒板が用いられ，教師は教科書を参考にして授業を進めていた（写真 2）．クルアーンの暗唱と同様に，教師が黒板に単語を書き，生徒に挙手させて単語の読みを答えさせた．11 月に入ると，アルファベットの練習課題が課されるようになり，専用のノートが生徒ひとりずつに配布されてアラビア文字の練習も始まった（写真 3）．

クルアーンの独唱やアラビア語の読みが正確に答えられないときには，生徒が立たされることもあった．ときどき，私もアラビア語を発音するよう指名されることがあった．しかし，とても難しい．黒板に書かれたアラビア文字を書き写すだけでも時間がかかり，発音をカタカナで書いていくだけで精一杯だった．

生徒たちのふるまい

授業が始まって 30 分後には生徒たちの集中が切れて姿勢が悪くなったり，授業が中断すると，隣の生徒と話しだしたりすることもある．また生徒のなかには，教師に見つからないようにお絵かきをしたり，隣の子どもと

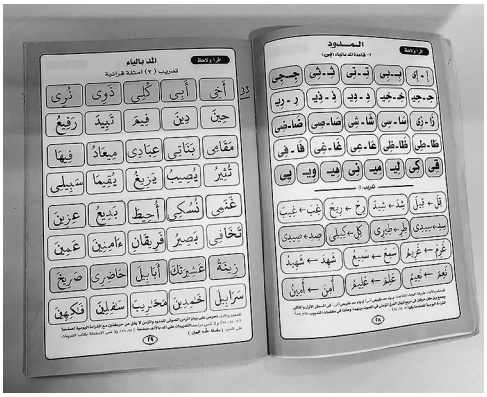

写真 2　アラビア語の授業の際に用いられた教科書

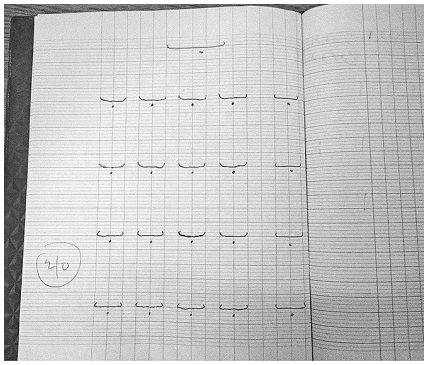

写真 3　筆者自身のアラビア文字の練習課題用のノート

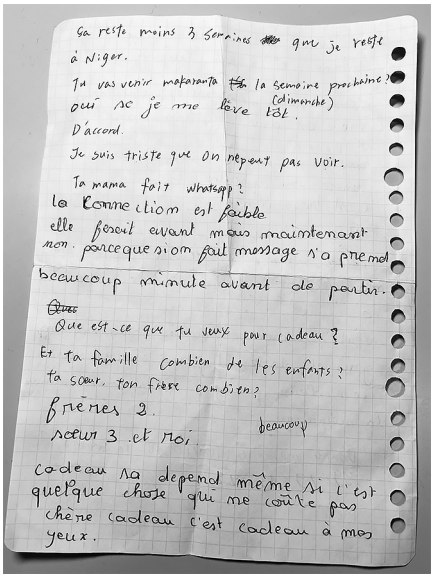
Ça reste moins 3 semaines ~~[illegible]~~ que je reste à Niger.
Tu vas venir mokaranta ~~[illegible]~~ la semaine prochaine? (dimanche)
oui si je me lève tôt.
D'accord.
Je suis triste que on ne peut pas voir.
Ta mama fait whatsapp?
la connection est faible
elle fesait avant mais maintenant non. parceque si on fait message il a prend beaucoup minute avant de partir.
~~Que~~
Que est-ce que tu veux pour cadeau?
Et ta famille combien de les enfants?
ta sœur, ton frère combien?
frères 2.
sœur 3 et moi. beaucoup
cadeau ça depend même si c'est quelque chose qui me coûte pas chère cadeau c'est cadeau à mes yeux.

写真 4　隣に座っていた A ちゃんと文通した紙きれ

文通したりする者もいる．私自身も，小さな先生たちと文通することがあった（写真 4）．文通は生徒たちのクルアーン学校での学びや家族，日々の生活について知るための貴重な手段であり，教師に隠れて紙を交換しあった．

そして彼女たちは，授業で扱うアラビア語の読みを教えてくれる．とくに B ちゃんは，なかなかクルアーンの暗唱についていけずに生徒の暗唱中に黙ってしまう私に，「読んでみなよ，アイシャ．とりあえず挑戦してみて」と，まるで本当の教師のように激励してくれた．

生徒として認めてもらえた日

ニアメに戻り，X 校への通学を再開してから 10 日間ほど経った 2023 年 7 月中旬のある日，この日の授業では教師がいつにも増して生徒が独唱する時間を多くとった．詠ませる章句はクルアーンの第一章「開端」章．教師が指名する人数も多く，いつもはあまり独唱しない 7，8 歳の生徒も指名した．ついには，座っている順番で指名しはじめたので私は自分にもまわってくることを考えはじめた．

A ちゃんに暗唱する順番がまわってきたので，私は心の中で暗唱部分を復唱した．A ちゃんが暗唱し終えると，教師に「アシダ，詠みなさい」と指名された．私だけでなく，近くに座っていた生徒たちも驚いた顔をしていたが，詠まなければならない．私もほかの生徒と同様に独唱した．発音を訂正されて繰り返し詠む部分もあったが，最後まで，なんとか暗唱できた．

暗唱中，近くに座っている小さな先生たちは，私をじっと見つめて微笑みながら応援してくれた．私が暗唱した後，「とてもよかった」とほめてくれた．A ちゃんは，「ミズホのことを誇らしく思うよ」とまで言ってくれた．授業終了後に教師が，「よく暗唱できたね．とても良かったよ．ゆっくり少しずつでいいから覚えていこう」と声をかけてくれた．この瞬間，私は X 校の本当の生徒として認められたような気がした．

2023 年 7 月 26 日の朝，いつものように X 校に通うために準備をしていた．指導教員から突然，「大統領が，軍部に拘束された」というニュースを受け取り，自宅待機となった．クーデターが発生したのだった．この日は授業終了後に，A ちゃんに連れられて服の仕立て屋をしている彼女の父親を訪問する約

束をしていた．午後にはいつもと同じようにアシスタントの家へ行き，女性たちと過ごす予定だった．しかし約束はかなわず，25 日に X 校へ通学したのを最後に，私は滞在先を離れ，ニアメ市郊外へ避難をし，8 月 2 日にそのまま国外退避となった．いま，小さな先生たちはどのような日々を過ごしているのだろうか．10 月現在，クーデターが収束しておらず，ニアメ市の官庁街における暴動やフランス軍の撤退というニュースが入ってくるが，今日もニジェールでは，子どもたちがクルアーン学校に通いつづけているにちがいない．

いまでは，ニアメはとても遠い存在となってしまった．ニアメで出会い，一緒にクルアーン学校で学んだ子どもたちに思いをはせながら，私は彼らとふたたび一緒に通学して，ひざを並べて一緒にクルアーンを暗唱する平穏な日々がもどることを強く願っている．

引　用　文　献

UNICEF. 2021.『世界子供白書 2021 統計データ』

トルコのマンガ考

──日本のマンガ受容とイスラームの境界線──

藤　本　あずさ *

「一番人気のある日本のマンガはどれですか？」私は書店員に尋ねる．
「どれも全部人気ですよ」20 代の女性店員が朗らかに答えた．
「そのなかでも最も売れているのはどれですか？」もう一押しする．
彼女はうーん，としばし頭を悩ませこう続けた．
「強いて言うなら『進撃の巨人』,『鬼滅の刃』,『呪術廻戦』が売れ筋ですね．」

ここはトルコ共和国（以下，トルコ）の都市部イスタンブールのアジア側にある，カドゥキョイという街である．一般的にトルコのアジア側は観光客が多く訪れるヨーロッパ側と比べて敬虔な市民が多い．しかしこのカドゥキョイという場所はやや異質である．街を歩けば至る所で洒落た酒場に出くわすからである．そしてスーパーに行けば冷えたビールがずらりと並んでいる．もっとも，これは日本では当たり前な光景である．しかし，世俗主義とはいえ飲酒をハラームとするイス

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

ラームを根幹にする社会のなかで，昼間から大音量の音楽が流れ，ネオンの光が灯る酒場でビールをかっ食らう様子をアジア側で見ると，なかなか不思議な気持ちになる．

冒頭の会話はそのようなカドゥキョイの一角にある書店である．書店とはいっても取り扱うのは主にマンガである．日本の作品以外にも，アメリカや韓国などのマンガも取り扱っている．ほかにもキャラクターのポスターやフィギュア，キーホルダーなどが売られており，いうならばイスタンブール版アニメイトである．ほかの市内の書店においても日本のマンガは必ずといっていいほど販売されている．しかし，カドゥキョイのこの書店は人気作からディープなものや最新作まで豊富に取り揃えている．そのため，日本人のトルコ研究者たちも，その書店で流行りのマンガを購入しては語学の授業で使用したりと，知る人ぞ知る日本人研究者の穴場スポットでもある．

小さくも奥行きのある店内で，日本のマンガは多くの場所を占めている．隅の方にはいわゆる BL[1] や百合[2] のジャンルのマンガもあるから驚きだ．マンガの言語は英訳とトルコ語訳の 2 種類があり，前者は少し高めの値段設定で，後者は日本とほぼ同じか少し安いくらいの価格である．英訳で売れたものをトルコ語にも翻訳していると推測できる．イスラームでは忌避されているからか，前述の

写真 1　カドゥキョイの某書店の入口

BL や百合のマンガはトルコ語には翻訳されておらず，英訳のみひっそりと置いてある．

トルコ語に翻訳されたマンガコーナーでは，売れ筋の 3 作品のほかにも，『SPY × FAMILY』，『チェンソーマン』，『東京卍リベンジャーズ』，『約束のネバーランド』などの人気作品も並んでいた．また，今回（2023 年）の調査ではトルコ語に訳された『極主夫道』を複数冊その書店で販売していたのが印象的だった．というのも，筆者はトルコで若者が実践する現代的なスーフィズム（イスラーム神秘主義思想）とスピリチュアリティの関係を調査しており，そのなかで偶然にも

1）ボーイズ・ラブ．男性同士の恋愛が題材であるジャンルを指す．トルコ語では “yaoi” と表すこともある．
2）女性同士の恋愛を扱うジャンルは一般的に「百合」として知られている．トルコ語でも同様に “yuri” と表す．BL に対して GL（ガールズ・ラブ）と称されることもある．この用語が一般化したきっかけは，女性の同性愛者からの投稿を掲載する「百合族」なる雑誌コーナーに由来するとされている．

この書店を知ったのだ.

トルコで人気を得る作品はとある一貫した特徴をもつ．それは，主人公が何らかの道を極めて修行し，過酷で理不尽な環境でも努力し，目標に向かって強い意志で突き進むというストーリーである．心身ともに鍛える，いわゆる修行という概念はスーフィズムにも存在し，親和性が高いといえる．少年マンガの王道ストーリーであるが，過去にトルコで人気のあった作品，たとえば『キャプテン翼』や『DRAGON BALL』，『ONE PIECE』，『NARUTO―ナルト―』といった作品からも，そうした物語展開は多くのファンを獲得するために欠かせない要素であることがわかる.

一方，日本で長らく愛されている作品である『ドラえもん』や『クレヨンしんちゃん』，『ちびまる子ちゃん』そして『サザエさん』といった作品は，トルコの書店でほぼ見かけない．青少年向けのマンガと比較して，これらの作品がトルコであまり広まらない理由は，時代や読者層の設定とは別に，いくつかの要因が挙げられる．まず『ドラえもん』は，主人公であるのび太が努力や成長をせず，ネコ型ロボットに依存している点が読者にとって魅力的ではないのだろう.『クレヨンしんちゃん』は，男児が下半身を露出するシーンが多く登場するため，受け入れられない可能性が高い．そして『ちびまる子ちゃん』や『サザエさん』のような作品は，ご近所付き合いや小学校での交友関係など，日本社会の日常生活のなかにある微細な皮肉や風刺が，トルコの読者にとって理解しにくいと推察できる.

さらに，『ゴールデンカムイ』は，日本でアニメ化や実写映画化した人気作であるが，トルコの書店ではあまり売られていない．それは，この作品がアイヌ文化をテーマにしているため，トルコの読者に馴染みのない要素が多いからだと考えられる．また，kamuy（カムイ）はアイヌ語で神格を有する高位の霊的存在を指し，イスラームの神概念と異なる点も馴染みが薄く，あまり関心を引かない可能性がある．同様に，アニメ化・実写化した，中国春秋戦国時代を舞台とする『キングダム』もトルコの書店でほとんど見かけない．このように，物語自体は少年マンガの王道的な物語展開だとしても，史実に基づく作品はトルコの読者の心にあまり響かない傾向がある.

加えて，もうひとつの売れない傾向がある作品群は「異世界モノ」および「転生モノ」である．昨今これらの物語は日本で人気を高めており，似たような作風の物語が多く出回っているが，トルコで話題にはならない．この点について，カドゥキョイのモダ（moda：トルコ語で流行の，今時なという意味）なカフェでマンガについてムスリム（イスラーム信徒）の友人と話す.「まぁ，イスラームの考えに転生はないからね.」ムスリムにとっては，某作品のような転生したらスライムになっていたなんて展開は絶対にあり得ないのだ.「イスラームには生まれ変わって動物になるっていうのがないんだよ．動物には知識がないとされているから天国も地獄もいかない．人間は正しい行為を選択できる

から動物とは違うっていう考え方なんだ.」また，前世に関しても「悪いことが起こるのは前世の行いのせいだ！って思うことで安心できるのはわかるけど，前世の罪で今苦しんでいるなんて信じないよ．前世の罪が今現在に影響している，というのがイスラームの考えと違う．イスラームでは苦しみは神からの試練だから．あと，前世のことなんて覚えていない．覚えてない前世の罪なんて現世には関係ない．というか，そもそもクリスチャン的な原罪という考えがないんだよ」．でも，と彼女は続ける．「アストロジー界隈の人たちが行っている，前世の問題を解決する前世療法はちょっと気になる．おもしろい」といい，「もちろん信じないけど」と付け加える．「ちなみに，テタヒーラー[3]の人たちは高次の神的存在をアッラーではなくヤラトゥジュ[4]って呼んでいるよ．でも高次元に上ってヤラトゥジュと話すのは，ムスリムとしては危ないと思う．スピリチュアルな思想は行き過ぎると怖いから，ほどほどに楽しむくらいが一番いいよね」といって，腕につけているパワーストーンを見せてくれた．「パワーストーンは信心深い人もセキュラーな人もつける，モダなものなんだよ」と教えてくれた．

周辺のいくつかの店には，非公式なアニメグッズと一緒に，チャクラ・ブレスレットと呼ばれる商品が販売されていた．また，これらの店舗ではお香も販売されていた．ブレスレットやお香など，簡単に心理的な安心を提供する商品も，ここ数年で人気を集めている．加えて，書店ではスピリチュアリティに関連する多様な書籍が販売されていた．なかでも有名なものは，願望を「した／なった」と過去形で表現すると実現するという書籍である．トルコで最近注目されているこのアプローチは，どこか日本の言霊信仰と類似している．また，悩みを思い浮かべてページを開くと答えがあるという書籍も販売されていた．これらの商品や思想は，伝統的なイスラームとは異なるものの，トルコの多くの人々に受け入れられている．ただし，同性愛や転生など，イスラームの核となる価値観と一致しない概念は，フィクションであっても不人気である．そこには，一種の目に見えないボーダーラインが存在しているようだ．

以上を踏まえ，トルコで人気のある日本のマンガにおける3つの特徴を整理する．まずひとつは，日本的なシンボルの登場である．刀剣や忍者など，わかりやすい日本的なシンボルは，トルコに限らず海外の読者にとって新鮮に映る．2つめは，文化的・宗教的な許容のボーダーラインを越えないことである．社会通念であるイスラーム観とある程度の整合性がないと幅広いファンをつかめ

3）Theta Healing．トルコ語ではテタヒーリングと発音されることが多いが，一般的にはシータヒーリングと呼ばれる．ホームページによると，シータヒーリングは1995年にヴィアンナ・スティバルによって創設された瞑想手法であり，その手法は脳波をシータ状態に誘導し，「万物の創造主」によって身体的および精神的なヒーリングを実現すると主張している［シータヒーリング 2023］.

4）Yaratıcı．創造主という意味.

ず，そもそもトルコ語に翻訳されない．3つめは，主人公の成長である．単に平和な日常を描くのではなく，時に挫折しながら，主人公が友人や師と協力して身体的にも精神的にも成長していく過程は，読者に共感を呼び起こし，人気を獲得しやすい．こうした性格をもつ日本のマンガが特に人気を博し，トルコでも多くの人々を楽しませている．

引 用 文 献

シータヒーリング．2023.〈https://www.thetahealing.com/ja/〉

おしゃべりして待つ

──カメルーン北部ンガウンデレのくらしとウシのこと──

新 川 ま や*

ンガウンデレの街並み

わたしがくらす街の名はンガウンデレという．中部アフリカ，カメルーンの首都ヤウンデから北に電車で半日，カメルーン唯一の鉄道カムレールの終着駅が，ここンガウンデレにある．

街を歩くと，切り落とされたウシの頭や尻尾，内臓が目につく．薄く叩き伸ばされた牛肉や牛皮が道端に干されている．なかなか舗装されない赤土の道に目をやると，ウシの足跡に出くわす．ウシ市か，と畜場か，それとも村へ帰るのか．せわしなく人が行き交う街中を，ウシの群れも堂々と行く．

群れの後ろを，1メートルほどの木の棒（*sawrou*[1)]）を手に持った牛飼い（*Gainako*）の青年が歩いている．ウシを飼養するのは，決まって「村フルベ（*Fulbé laddé*）」あるいは「ボロロ（*Mbororo*）」と他称される人びとだ．村フルベの人びとは，「街フルベ（*Foulbé wouro*）」の人びとからウシを預かり，飼養する．その代わりに，彼らはウシの

写真1　ンガウンデレ駅の前を行くウシの群れ

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1）文中のフルフルデ語はすべて，カメルーン・ンガウンデレ地域方言で表記．

ミルクやヨーグルトを売ることができる．また雨季には，トウモロコシやマメを栽培し生計を立てている．

雨で道がぬかるんで肌寒い日も，砂埃が巻きあがり，灼熱の太陽が照りつける日も，牛飼いはウシ市から数十キロメートル離れたウシ市へ，あるいは村から水場へと日がな一日ウシとともに歩く．

人びととのおしゃべりから

はじめてンガウンデレを訪れた時，わたしは大してウシに関心はなかった．それどころか調査テーマもきちんと定まっていなかった．ただ目の前に起きる些細な出来事に，普段よりも一喜一憂しながら，生活に一生懸命だった．

この頃のわたしの仕事といえば，もっぱら自分の存在を人びとに見せることだった．よく知らないこの街を，丁寧に歩き，人に話しかけたり，かけられたりしておしゃべりの輪に入っていく．

店先のベンチに座ったり，礼拝用マットを尻に敷いたりして，日の当たらない涼しい場所でピーナッツやサトウキビを片手に友人との会話を楽しむ．

お題は近所のゴシップやカネのこと，カメルーンと日本の政治や文化の話などさまざまだ．話し疲れると通行人を眺め，コーヒーや茶をちびちびとすする．わたしはひととおり話終えると立ち上がり，「アッラーがあなたに祝福を与えてくださいますように」といって別れを告げ，また別の輪に入っていく．

仕事のない人はもちろん，仕事の手を止めてでも，人びとはおしゃべりに勤しむ．このように，おしゃべりをして暇をつぶすことをフルフルデ語でファーダ（*faadah*）という．

「ニーハオ，ブランシュ．君は昨日あそこの交差点でファーダしていたろう．」

「ジャポネ，今日もファーダか．新しいニュースはなんだ？」

このひとことで「中国人」「白人」あるいは「日本人」と見られているわたしも，すっとファーダの輪に馴染んでいく．それはまるで，このよく知らない広い街がだんだんと狭くなるような感覚だ．

わたしはこのファーダのなかで研究テーマを見つけた．

たとえば次のようなはなしである．ソファー職人のアダム（50代男性）は，ファーダのなかで，ふと「1月になったらウシを1頭買う．もし年末までにもうひとつソファーが売れたら，2頭買う．今年は金がなくて，子どもたちの進学のためにウシを全部（2頭）売ってしまった」と呟いた．

また，「Faadah Quartier Bali（バリ地区のおしゃべり仲間）」というファーダのメンバーによって構成されたWhatsAppのグループチャットには，家族・友人の写真やウェブニュースの記事とともにウシの写真が送られてくる．そこには，「ウシは神からの祝福を持っている」というメッセージが添えられていた．

2回目の調査がはじまり程なくして，この街随一の大富豪アラジ・アッボがトルコでの療養中に亡くなった．すると，道端でおしゃべりする人びとの関心は，彼の所有するウシ

を，4 人の妻と 36 人の息子・娘たちがどのように分け合うのかということに集中した．

ンガウンデレの金持ちは皆決まって，ウシを何百，何千頭と所有している．うわさでは，彼は 4 万 7,000 頭ものウシを所有している．1 頭あたりの平均価格は 25 万 CFA フラン（中央アフリカ CFA フラン：以下フラン，約 6 万円）だから，この数には圧倒される．ンガウンデレでは，多くのウシを持つことは富者の象徴である．

ンガウンデレの人びとは，稼いだ金をウシにかえて貯蓄することを好む．たとえば，10 万フラン（約 2 万 4,000 円）で 1 歳の仔牛を 1 頭購入すれば，2 年後には 30 万フラン（約 7 万 3,000 円），3 年後には 40 万フラン（約 9 万 7,000 円）というように，ウシの成長とともに「貯蓄額」が増えるからだ．

だが，人びとは全財産をウシにかえようとは考えない．ウシの窃盗がはびこる当地域では，ウシの預託料と信頼できる牛飼い，定期的にウシを預けている村まで出向いてウシの生存確認をするだけの時間と労力を確保できなければ，ウシは容易に盗まれてしまうからだ．

ところで，こうしたウシの話を好むのが，ウシを飼養する「村フルベ」なら納得できる．だが，わたしがはなしを聞いた人びとはソファー職人や服の仕立て職人，起業家や学生，仕事のない人など，一見するとウシとは関係ないような生活を送る人びとだった．

このような体験が重なると，私は，やむなくウシを中心にものを見たり，考えたりするようになった．毎日のつとめである街歩きは，徐々に郊外のウシ市へと伸びていった．ウシのことを知るためには，牛飼いやウシの商人（*Palké*），取引の仲介者（*Sakaina*），牛肉の卸商人（*Bangaaro*），市を管轄する政府関係者や伝統的権威者（*Sarki Tiké*），そしてカメルーンの北部やはるばるナイジェリア，チャドからやってくるさまざまなウシが集まるウシ市に出向くことが最良と考えたからだ．

ンガウンデレのウシ市

ンガウンデレ近郊農村では，大小 14 のウシ市が開かれる．それぞれ開場は 1 週間に 1 度で，毎日 1 ～ 2 ヵ所で市が開かれている．

市でひときわ目を引くのは，商人たちだ．10 枚ずつ綺麗に仕分け，輪ゴムで括られた大量の札束を片手に，売り出されたウシの周りを囲んで大きな声で言い合っている．「こいつは先週 28 万フランで買ったウシだ．30 万フランで売ってやろう」「いや，こいつはあいつよりも小さいからもっと安くしろ」といった具合に．売り手が買い手の手をとり，日傘のなかや周りに背を向けてひそひそと話し始めたら，取引もいよいよ終盤だ．

写真 2　賑わうウシ市のようす

写真 3　カネを慎重に数えるウシ商人と筆者

「たとえそれが贈り物だとしても，カネはしっかり数えろ」とは元ウシ商人の古老が教えてくれたことであるが，商人たちは，支払う側が 1 回，受け取る側が 1 回，最後に両者が一緒に確認することで，少なくとも 3 回はカネを数える．しかし，そのような慎重さとは対照的に，はじめて取引する相手に対して，思い切って信用取引（*Nyamaandé*）でウシを売ったりする．たとえば，わたしのウシの先生，ズベイル（60 代男性）は，大きなウシ 1 頭を，肉屋を営む男性に 33 万フラン（約 8 万円）で売却した．そのうち，10 万フランはその場で支払われたが，残りの 23 万フランはきたる日曜日に支払うという約束だった．だが，その後，今日まで 2 週間経っても肉屋の男は姿を見せない．

市を見渡すと，もう一点気になることがある．それは，取引に参加せず，またウシの世話もせずに木陰に入っておしゃべりをしている人びとだ．2 度目の滞在となった 2023 年 8 月，わたしは日曜の大きなウシ市に来ていた．そのなかに，見覚えのある姿があった．牛飼いのイッサ（40 代男性）だ．彼は，コーラナッツを齧りながら，友人とおしゃべりをしているところだった．わたしに気づくと，「マヤ！久しぶり，よく来たね．ようこそ！」と手を振って，わたしをファーダに招き入れた．彼は，はじめて滞在した時，ウシのことをいろいろ教えてくれた牛飼いだ．だが，わたしは彼との再会の喜びとともに，ちょっとした気まずさも覚えていた．

2023 年 1 月，ある友人からボイスメッセージが届いた．

「イッサが預かっていたウシのうち 3 頭を勝手にウシ市で売ったと聞いた．」

「そのカネで，タバコと酒を買って，街で女と遊んでいたらしい．」

友人によると，彼はたちまち「盗人」と人びとにうわさされるようになった．ウシを取り上げられ，仲間や家族からも見放された彼は村を出て，タクシー運転手をやるらしいということだった．

しかし，この日彼は以前とかわらずウシ市にいた．それだけでなく，毎週ウシ市に来ている．彼はタクシー運転手になることもできず，またウシの仕事を捨てることもできず，

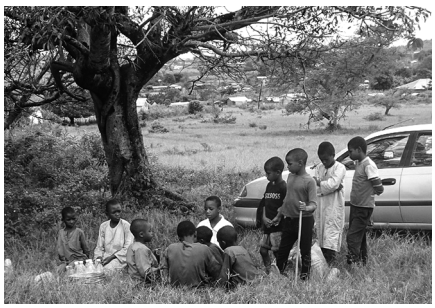

写真 4　ウシ市のようす
大人たちだけでなく，子どもたちもおしゃべりに忙しい．

今日もウシ市で同じく仕事のない友人たちとおしゃべりをしている．ただ，以前と異なるのは，彼はもう市に連れてくるウシを持っていないし，彼にウシの輸送や飼養を頼む人もいないということだ．

わたしは，彼が本当にウシを勝手に売ったのか，なぜそのようなことをしたのか，いまだ聞き出せずにいる．ウシ市で彼と再会の握手をした日，陽気な挨拶とは対照的に周囲から避けられている彼の表情は少し曇っていた．その目が，「自分は何もやっていない」と伝えていたのか，それとも外部者のわたしに「仕方なかったのだ」と理解を求めていたのか，わたしにはわからなかった．

それとも，華やかなウシ経済を下支えする牛飼いたちの生活苦やその仕事の大変さがほんの少しわかったことで，彼に同情しているのかもしれない．いずれにせよ，それ以来，ウシ市や街中で彼を見かけるが，まともに話もできていない．

今日も，ウシ商人たちが賑やかにやりとりする市の片すみで，ウシを捨てられない彼はおしゃべりで暇をつぶしている．いつか自分のもとにウシの仕事がかえってくるのを待っているのだろう．すすまない調査から逃げるようにおしゃべりに参加するわたしよりも，少しばかり真剣に，そして切実に．

自己のなかの「他者」と向き合う

──月経経験のオートエスノグラフィーへ向けた試み──

荻　野　なつれ *

ウシと鶏の鳴き声で目が覚めた．起床後すぐに向かったお手洗いで，自身のショーツに滲む経血に，こころのなかで「このタイミングかぁ…」と呟き，肩を落とした．

ラオス人民民主共和国（以下，ラオス）の首都ヴィエンチャンから北へ車で約 2 時間，この調査地とも気付けば 4 年の付き合いとなっていた．稲作や家畜飼育を主な生業とするこの村で複業的におこなわれているのが，タケやラタンを用いたタケ籠や腰掛けイスなどの手工芸品製作だ．タケ籠を編む技術，女性たちが集って製作をする光景に惹かれ，日々，タケ籠に用いるタケの種類や技術習得の過程，それらの販売経路に関する情報を集め，自らもタケ籠を編む技術を学びながらフィールド生活を送っていた．

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

製作者個々人をもっと知りたいという思いからも，そろそろ調査へ本腰を入れねばという焦りからも，ひとまずスポット・チェック調査[1]に取り掛かろうと思っていた矢先に，朝一の落胆である．手工芸品製作に関する語彙も増え，調査へのモチベーションが絶頂に達していたところで現れた月経は，やけにやる気を削いでいった．調査中に生理用品を自由に交換できる時間や場所は確保できそうかという心配や，急にやってくる生理痛や倦怠感への不安といった，この先たった数時間の緊張感が拭えず，この日は調査手法を変更し，スポット・チェック調査は数日後に延期することにした．

月経がきたことを認知したからなのか，不思議と気持ちがだるかった．いつもよりのんびり身支度をしていると，向かいに暮らすおじさんに「どうしたのか，今日は仕事（＝調査）に行かないのか？」と声をかけられた．「ちょっとお腹痛くてさ」と答えると「ナット（＝執筆者の愛称）は昨晩のラオス料理が合わなかったのだなー！ハハハ」と笑われた．

日本からフィールドへ持っていく荷物は極力減らしたく，生理用品などの消耗品は基本的に現地購入と決めていた．生理用品を買いに行けば，商店を営む馴染みのおかあさんも，行きしな，帰りしなに会った村びとも「ナットに月経周期がきたこと」を口にせずとも知るのだ．自宅に戻り，お世話になっているおねえさんに「生理きちゃった」と伝えると，「お腹痛む？今日は家でゆっくり休んでいな」と言われた．

しっかり身体を休めたほうがよいとは分かっていても，やはりひとの家，そしてフィールドワーク中だ．月経期間中は横になっているときや就寝中の寝返りによる経血漏れにも必要以上に気をつけ，無駄に気疲れがする．さらに，せっかくフィールドにいるのに外へ出かけず部屋で休んでいることに対する罪悪感もどこからか生まれてきてしまった．そんな気持ちをちょっとでも蹴飛ばしてやろうとひとまず起き上がり，手始めに汚れたショーツを洗いながら，経血がベッドシーツに滲み出ていなくてよかった…と改めて安堵した．月経初日～２日目は経血量が多いことも考慮し，快適に生理用品を交換できるよう比較的自宅に近い場所での参与観察をおこなった．

普段であれば明るく振る舞い，楽しんで受け入れることができるラオ語の発音の不十分さに対する子どもたちの揶揄いや，村びとのお手伝いを求む声，お酒の場では比較的寛容になれるスキンシップにも，やけに過剰に反応してしまった．常に最大限の優しさで現地調査をサポートしてくれるフィールドの人びとにイライラしてしまう自分，いつもなら気丈に振る舞えるはずの「自分ではない自分」にさらに腹が立つのであった．

1）動物生態学（行動学）の分野で発展した，人間の活動を客観的に観察し記録するために，観察日時や観察対象をランダムに選定しておこなうタイムアロケーション（時間配分）研究の方法［大塚 2011: 70］．この日は，ランダムに選んだ 3 世帯を朝 8 時～夜 8 時まで毎時間ごとに訪ね，都度どの世帯要員がなにをしているのかを記録することを試みていた．

そして日が暮れれば，多少の気疲れを抱えつつ，翌朝にショーツとベッドシーツを洗う必要がないことを願いながら眠りについたのであった．

月経は，女性の子宮内膜が周期的に剥がれ，血液とともに体外に排出される生物学的事象である．その一方で，月経期間前後のホルモンバランスの変化にともなう身体的不調や精神的不調，月経期間の不特定性や不確実性という点では，どうにもコントロール不可能な側面をもつ．それゆえに，「自分ではない自分」に腹が立つ…なんてことが起きるのである．だからといって，月経がきたらイライラしないように気をつけよう！というのはまったく役に立たない試みである．今回の月経が激しい生理痛をともなうものなのか，ひどく気分が落ち込むものなのか，特にこれといった不調がなく元気に過ごせるものなのか，月経は周期によって全く違う顔をみせてくる．ホルモンバランスが原因だと分かっていても，もしくは，実際には表立って身体に不調をきたしていなくても，生理がきたことを知らせるショーツに映る経血を思い返しただけで，不思議なもので気持ちが乗らなくなってしまう．なんとも，誰かに情緒を左右されている気持ちになる．自らの身体に起こっていることでありながらも，そのときどきの体調や気持ちを十分に理解することができない月経は，いわば「自己のなかの他者」なのではないだろうか．女性たちは，月に 1 度，自身のなかにどうにも飼い慣らすことのできない他者と共生しているのである．

写真 1　タケ籠を編む執筆者

改めて記述するまでもないことだが，元来より，人類学や地域研究の領域では中～長期間のフィールドワークを通じて，現地の人びとの視点から彼らの社会を捉えようと試みてきた．国内外を問わず異文化に身を置き，人びとととともに生活することをとおして，調査者自身の生まれ育ってきた環境や社会との差異を知覚し，フィールドと自らとの「あたりまえ」の見つめ直しをおこないながら，自らがもつ「あたりまえ」の枠組みの可変性と向き合ってきたのである．とはいえ，異文化である．調査はもちろん，コミュニケーションひとつをとっても，うまくいくときとそうでないときがある．いや，むしろ，ほとんどがうまくいかない…．それでもフィールドワーカーらは，彼らを理解しようと熱心にフィールドとの対話を繰り返してきた．

この便りも終盤となってきたが，ここで執筆の目的を記しておこう．これは，フィールドにおいて研究者が経験する異文化やそれにともなう「うまくいかなさ」と，自己のなかにいる制御不能な異文化の他者である月経との関係性を再確認し，オートエスノグラフィーを模して記述してみようという試みである．オートエスノグラフィーとは，自己（auto），文化（ethno），書く（graphy）から成り，個人的で文化的な経験をどのように知り，名づけ，解釈するようになったのかを表現する，自己の／自己についての記述である［アダムスほか 2022: 1–49］．フィールドと月経，2つの異文化と自己との交わりをエスノグラフィーとして描くことをとおして，フィールドへ赴く自身や身体との付き合いかたを見つめ，翻って異文化を理解しようと試みる自分自身の理解を深める手助けになることを目指している．

ひとの生涯において，自己のなかに他者が登場することは男女問わずあるのではないだろうか．妻や夫，母や父としての自己，思春期，更年期障害，思いがけない病やどうにも避けられない老いによって気持ちや身体がいうことをきかないこと…，私たちは人生においてさまざまな節目や経験を迎える．そのときどきにできること，できなくなっていくことなど，自己に包括される身体の調子や社会的役割は必ずしも単一なものではない．研究者らが，うまくいかないながらも丁寧に異文化であるフィールドとの対話をおこなってきたように，わたしたちも自己のなかにいる他者との対話から新たな社会の見方を生み出すことができるかもしれない．

さて，ここまでお付き合いいただいた読者のみなさんは，フィールドにいる自らの存在を振り返り，女性の読者のみなさんは，これまでの月経経験のなかで現れてきた「他者」の存在を思い返してみたのではないだろうか．インゴルドは人類学における参与観察について，他者に注意を払うこと，つまり他者がすることをよく見て言うことをよく聞くことによって，人びとについての研究を生み出すというよりも，むしろ人びとととともに研究する，と記述する［インゴルド 2020: 16–17］．彼が言うところの「他者」には，フィールドにいる他者に加えて，自己のなかに突如として現れる他者が潜んでいるのかもしれない．この便りをとおして，さまざまな他者と交わり合いながら暮らす日常や，自己のなかに潜む他者に眼を向ける契機を与えられていれば幸いである．

引用文献

アダムス，トニー E.・ジョーンズ，ステイシー ホルマン・エリス，キャロリン．2022.『オートエスノグラフィー―質的研究を再考し，表現するための実践ガイド』松澤和正・佐藤美保訳，新曜社.

インゴルド，ティム．2020.『人類学とは何か』奥野克巳・宮崎幸子訳，亜紀書房.

大塚柳太郎．2011.「人間活動と生業適応」渡辺知保・梅崎昌裕・中澤港・大塚柳太郎・関山牧子・吉永淳・門司和彦『人間の生態学』朝倉書店，69–81.

懺悔と雨乞い

──気候変動時代におけるインドネシア・イスラームの一側面──

中　鉢　夏　輝 *

身の周りの地球温暖化

インドネシアの首都ジャカルタ近郊の都市デポックにある，筆者が住む下宿先の近所に小さな洗濯屋がある．筆者は洗濯屋の主人（30 代男性）と毎日のように「暑いね」という挨拶をお互いに交わす．2023 年 10 月初頭のある日，洗濯屋の主人は「ずっと雨が降らないね．普通じゃない」と述べた．「どういうことか」と聞き返すと「グローバル・ウォーミング（Global Warming）さ」と笑って答えた．筆者はこの英単語を突然耳にして，面食らってしまった．彼とは地球温暖化についての話をしたことがなかった．

インドネシアには乾季と雨季の 2 つの季節がある．おおむね，乾季は 4 月から 9 月頃まで，雨季は 10 月から 3 月頃まで続く．しかし，2023 年は例年どおりとはいかなかった．インドネシア気象気候地球物理庁（BMKG：Badan Meteorologi, Klimatologi, dan Geofisika）は，エルニーニョ現象に伴い，インドネシア各地で雨季の到来が例年よりも遅れていることを発表した［Dwi Herlambang Ade Putra 2023］．メディアでは天気の異常が頻繁に報じられ，旱魃や熱中症への対策が呼びかけられていた．洗濯屋の主人は，このような情報をテレビなどで見聞きしたり，天気の異常を肌感覚で察知したりしていたのだろう．

インドネシアにおいて地球温暖化に伴って生じる気候変動問題は一種の流行といえる．この問題はイスラームとも無関係ではない．政府や企業のみならず，宗教指導者やイスラーム団体までもが気候変動問題を重視する姿勢をみせている．一部のムスリムは，気候変動が信仰上の問題であると主張している．さらに，インドネシアでは寄進財を利用した植林活動など，イスラームの仕組みを適用した環境保護活動も盛んに実践されている．筆者はこうした新たな宗教実践を展開するムスリムの動向を調査している．そのなかで，気候変動によってムスリムの信仰のあり方はどのように変化しているのか，ということも気になっていた．そう思っていた矢先，雨乞い礼拝が行なわれるというニュースを見聞きした．

雨乞い礼拝の手順

旱魃の発生や乾季の長期化を受けて，2023 年 10 月，インドネシア各地で「サラー・イスティスカー」（*salat istisqa*）と呼

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

ばれる雨乞い礼拝が行なわれた.[1] この雨乞い礼拝は，預言者ムハンマドの時代からイスラーム世界全体で行なわれてきた伝統的な礼拝の一種である．イスラームの開祖である預言者ムハンマドが神から受けた啓示をまとめた，聖典クルアーンには雨乞い礼拝について詳しい記載はない．一方で，預言者ムハンマドの言行を記録したハディースには，信徒から雨不足の窮状を訴えられた預言者ムハンマドが雨乞い礼拝を行なう様子が記されている．

実際に雨乞い礼拝はどのように行なわれているのだろうか．10 月のある日，筆者は南ジャカルタに行き，インドネシアの代表的なイスラーム団体であるムハマディヤが運営する高校を訪問した．この高校の隣にあるグラウンドで雨乞い礼拝が開催されることを，高校が運営するインスタグラムのアカウントを通じて知ったからである．そのアカウントでは，近隣住民に対して礼拝への参加が呼びかけられていた．午前 7 時半から学生たちがぞろぞろとグラウンドにやってきては，男子生徒が前方，女子生徒が後方に整列して座っていた．近隣住民も列のなかに入っていく．集団の最前列中央に座るイマーム（宗教指導者）の声が，スピーカーを通じてグラウンド中に響いた．イマームはアラビア語で，ゆっくりとしたリズムで「被造物の主よ，赦しを請います．数々の過ちの赦しを請います」と 2，3 度繰り返し，「主よ，私の知識を深め，私の所為を受け入れてください．私に糧を授け，私の心からの後悔をお赦しください」と唱えた．8 時を過ぎるまで，イマームはこのイスティグファール（*istighfar*，神に赦しを請うこと）という唱念を何度も繰り返した．マイクを手に持った教員が「さあ，みんなで声をだせ」と生徒たちにイスティグファールの合唱を促していた．生徒たちは胡座座りでじっとするか，隣の生徒にちょっかいをだすなどして，礼拝の開始を待っていた．8 時頃に一度，教員から指名された一部の生徒が寄進材として少額の紙幣や小銭を回収していた．

8 時 10 分を過ぎた頃，生徒が揃うと，スーツを着た教員が生徒たちの前で挨拶をして，学校にペットボトルの水を寄付した近隣住民への謝辞を述べた．そして，イマームによるイスティグファールの唱和が再び始まった．唱和を終えると，先ほどの教員が雨乞い礼拝の説明を始めた．彼は「雨乞い礼拝とは猛暑が長引く今日の異常な気象が終わるよう，神

写真 1　雨乞い礼拝のために整列する生徒たち
立っている生徒は寄進財を回収している（筆者撮影）.

1）インドネシア語の名称についてはアルファベット・イタリック体表記で付記する.

に祈ることである」と，「祈る」の部分を強調しながら話した．そして，高校の職員や教員も列に混ざり，皆が西の方角に向かって礼拝動作を始めた．大勢が同時に，直立礼，屈折礼，平伏礼，座礼に至る 1 サイクルを 2 度行なう．職員のひとりに聞くと，「グラウンドに千人以上はいる」と言っていた．最後に，ハティーブ（説教師，30 代男性）による説教が行なわれ，8 時 40 分頃に雨乞い礼拝の一連の催しは終了した．

雨乞い礼拝の論理

雨乞い礼拝はなぜ行なわれるのか．人と神との関係に着目した説明では，雨乞い礼拝は自らの信仰心にかけて祈願することによって，降雨や農産物など神からの現世的利益を期待する行為とされる．ハティーブは説教のなかで「地上の全ての物事はアッラーの意志と無関係ではない．私たちはこうした神とのつながりを自覚し，信仰心を深め，示さなければならない」と説明していた．さらに，ハティーブは「私たちは，生態系のバランスを維持し，地上の動植物を管理することを求められている．これは地上の代理人（*khalifah di bumi*）としての責務である」と，人間には神に代わって自然を管理する責任があり，その成否も神からの評価に関わることを示した．

次第に，ハティーブの説教は熱を帯びてきた．「今日，私たちの手によって大地や海が破壊されている．私たちは自然環境の適切な管理をしているのか」と問いかけ，「この乾季の機会をつかって，イスティグファールを通じて神に懺悔をしよう．特に，私たちの生活の維持に不可欠な物事に対する不適切な態度について」と聴衆に自省を促した．このように，ハティーブは雨が降らないという気候の異常に関連づけて，人々の態度を戒めていた．

雨乞い礼拝を結節点として，現代の気候変動と人々の信仰心が結びつけられているのは，このムハマディヤ傘下の高校に限った話ではない．筆者が住むデポックでは，ムハンマド・イドリス市長が市役所職員たちと大集会場で雨乞い礼拝を行ない，市民に路上でのごみの焼却を止めるよう呼びかけたという［Laika Afifa 2023］．また，近頃深刻な旱魃の被害を受けていた西部ジャワ州・チアンジュールでも雨乞い礼拝が行なわれ，2024 年 2 月に実施される大統領選挙の大統領候補であるガンジャル・プラノウォ中部ジャワ州知事もこの礼拝に参加した［Gilang Akbar Prambadi 2023］．ガンジャルは，チアンジュールにあるポンドック・プサントレン（イスラーム寄宿学校）の広場で宗教指導者や学生とともに礼拝を行ない，気候変動に対処するために再生可能エネルギーやグリーン・エコノミーを定着させる重要性を説いたのだという．

それぞれの事例から，雨乞い礼拝の背後にあるさまざまな意図が汲み取れる．ただし，人間による自然への誤った介入があり，悪い影響が起きているという前提がいずれにも共有されている．従来，雨が降るか降らないか，そして異常気象の発生は人智を超えた現象であった．しかし，気候変動時代とも称される現代では，気候変動のリスク回避のため

に人間側の対応が重視されている．雨乞い礼拝は，自然を媒介にした人と神の交換関係に加えて，人から自然への介入の現状や責任を浮き彫りにする機会となっている．

神学的・生態学的罪と雨乞い礼拝

気候変動とムスリム個々人による宗教的義務の履行とを直接的に結びつけたハティーブの論調は特異な例ではない．2023 年 10 月 12 日，ムハマディヤのホームページ上で「雨乞い礼拝における説教―生態学的罪の放棄」という説教用の論考が発表された［Ilham Ibrahim 2023］．そこでは，旱魃とは賭博や酩酊などの不義の帰結であるとともに，汚染や森林伐採による結果でもあると主張されている．つまり，旱魃は宗教的義務を履行しないムスリムへの警告として神によって発せられる一方で，自然環境との関係を崩壊させる人間によって生じる両義的な現象なのである．論考のなかでは，宗教的義務の不履行が神学的罪として，自然破壊が生態学的罪として紹介されている．そして，罪を回避するために神の赦しを請うこと，節水やプラスチックごみの削減といった個々人ができる小さな取り組みの遂行が勧告された．

今日のインドネシアにおいて，雨乞い礼拝はムスリムが自らの信仰心を顧みて，さらには自然への関わり方についても自省する機会となっている．このような役割をもつ雨乞い礼拝は，地球温暖化のような大きな問題において人為的原因が強調されるいまだからこそ，今後も繰り返し行なわれるだろう．ただし，雨乞い礼拝を行なうことで，たとえばチアンジュールでの旱魃やジャカルタやデポックでの汚染といった環境・気候問題の被害を直接受ける人々に対してどれだけの効果がもたらされるのだろうか．多くの地域で行なわれるだけに，個々人の宗教的な意識や行動だけでなく，社会のなかで生じている環境負荷に対する効果までも期待してしまう．それを見つけるためには，ムスリムたちの信仰上の変化と，かれらを取り巻く社会環境の変化とを相互に，地道に追っていくことが求められるだろう．

引　用　文　献

Dwi Herlambang Ade Putra. 2023 (September 8). Kapan Musim Hujan Tiba? Ini Prediksi Lengkap BMKG, *Badan Meteorogi, Klimatologi, dan Geofisika*.〈https://www.bmkg.go.id/press-release/?p=kapan-musim-hujan-tiba-ini-prediksi-lengkap-bmkg&tag=press-release&lang=ID〉（2023 年 10 月 31 日）

Gilang Akbar Prambadi. 2023 (October 5). Datang ke Ponpes Al-Ittihad Cianjur, Ganjar Ikut Sholat Istisqa Bareng Kiai dan Santri, *Republika*.〈https://news.republika.co.id/berita/s22ae0456/datang-ke-ponpes-alittihad-cianjur-ganjar-ikut-sholat-istisqa-bareng-kiai-dan-santri〉（2023 年 10 月 31 日）

Ilham Ibrahim. 2023 (October 12). Khutbah Istisqa': Meninggalkan Dosa-dosa Ekologis, *Muhammadiyah*.〈https://muhammadiyah.or.id/khutbah-istisqa-meninggalkan-dosa-dosa-ekologis/〉（2023 年 10 月 31 日）

Laika Afifa. 2023 (October 4). Depok Prays for Rain Amid Prolonged Dry Season, *Tempo* (English version).〈https://en.tempo.co/read/1779758/depok-prays-for-rain-amid-prolonged-dry-season#:~:text=TEMPO.CO%2C%20Depok%20%2D%20Depok,importance%20of%20water%20for%20life〉（2023 年 10 月 31 日）

ラオスの「食べられる森」に憧れて

石　崎　　楓 *

「食べられる森」をつくる

「食べられる森」と聞いたとき，どんな印象をもつだろう．あくせく働かずとも果実などを食べて暮らしていける，熱帯の豊かさだろうか．あるいは日本の里山で，山菜取りをした経験かもしれない．

食や農に関心のある人であれば，欧米を中心とした食や農に関する市民運動―たとえばパーマカルチャーの潮流の中での「フードフォレスト」の取り組みや“オーガニックの母”アリス・ウォーターズの「エディブルガーデン」などを思い浮かべるかもしれない．自然と人間にやさしいライフスタイル，スローフードの世界観，丁寧な暮らしなどといった印象もあるだろう．欧米や日本における環境思想の動向は，サステナブル（持続可能）からリジェネラティブ（環境再生）へと変化し，より土壌生態系に配慮した地球市民の実践として「食べられる森」づくりに近年注目が高まっている．

本稿で取り上げるのは，ラオスのホームガーデンである．ホームガーデンとは，庭畑，屋敷林，屋敷地林，キッチンガーデンとも呼ばれ，屋敷地の中で多様な植物種が多層的に植えられている空間を指す［縄田ほか 2008; 落合 2016］．そこは有用植物で溢れたプライベートな生産の場であり，生活に最も近い土地を有効活用し，果樹や野菜，薬草などをつくり，つかっている市民の実践を見ることができる．

ラオスの「食べられる森」

2022 年 9 月某日，首都ヴィエンチャンの家庭で夕食をごちそうになった．その家庭の奥さんは料理好きと聞いていた．「準備から見せていただけませんか？」と言うと「じゃあ朝の 9 時に迎えに来るから」と言われた．どうやら一日がかりの仕事のようだ．朝から向かった先は，奥さんの叔父の P 氏宅である．

P 氏宅には，家の 3 倍ほどの広さをもつ庭がある．タケノコ，ヘチマ，ジャックフルーツ，キャッサバ，ナス，バナナ，ナツメ，シャカトウなど野菜や果物を利用するもの，プルメリアやナンバンサイカチといった観賞用の植物など，さまざまな有用植物が多層的に植栽されている．まさしく「食べられる森」と呼ぶにふさわしいホームガーデンである．

瞬く間に，奥さん方の手によって食材たちがぞくぞくと集まってくる．タケノコスープの材料になるノーマイライと呼ばれるタケノコとヘチマ，それから生きたナマズが 1 匹．

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

写真 1　P 氏宅のホームガーデンの様子
（2022 年 9 月某日，筆者撮影）

P 氏はラオス国立大学を定年退職してからカエルとナマズの養殖を始めた．市場に販売するが，とりわけ美味しそうに育ったものは家族や親せきで食べるという．

生きたアヒルの羽をむしってもらう

「アヒルって食べたことある？」と尋ねられた．どうやら次はアヒル屋へ向かうらしい．向かった先は路上の一角に建てられた小屋で，丸々太ったアヒルが生きたまま，30 羽ほどつながれていた．一般的な街中の市場では肉になった状態で並んでいるが，その場合羽を取り除くのに薬品が使われている可能性もあるし，肉になった後どのような状態で管理されているかもわからない．このアヒル屋では買いたいアヒルを自分で選ぶことができるし，目の前で羽をむしるのを確認することができる．もちろん，新鮮な内臓や血も手に入る．おじさんがアヒルの羽を抜いているあいだ，横の小屋で休憩して待つこと小 1 時間．値段は 1 キロあたり 4 万 5 千キープで，羽を抜く手間賃が 1 万キープである（当時 1 万キープは約 100 円であった）．

写真 2　アヒルの重さを測るアヒル売り
（2022 年 9 月某日，筆者撮影）

近所の庭の植物も一声かければつかって OK

帰り際に市場によって，そのほかの材料を購入した．カボチャ，ヘチマ，キクラゲが入ったカット野菜セットやバジル，シソクサである．

たくさんの材料を抱えて，家に戻ると，おもむろにブタの腸を洗う作業が始まった．まずはソーセージづくりである．内臓の塊の中から腸のみを取り出し，洗い，包丁の背でしごいて腸の内容物を出していく．すっかり洗い終わると，白い腸だけが残る．すると奥さんは外へ．近所のお宅の庭には，立派に茂ったコブミカンの木が 1 本ある．葉を 4–5 枚頂戴する．ひと声かければ，返事がなくても

写真 3　家の前に植えてあるレモングラスを収穫する
（2022 年 9 月某日，筆者撮影）

つかっても問題ないという．今度は自宅の前で，レモングラスを 2 本採る．

キッチンに戻る．レモングラスは，まず包丁で細かく刻んだのち，さらに石のすり鉢ですりつぶす．そこへトウガラシを 3 本と，棒で叩いて皮を剥いだニンニクを 3 片加えてつぶす．さらにアカワケギをひとつ，みじん切りにして加え，すりつぶす．最後にコブミカンの葉を細かくみじん切りにして加える（この際，葉の中央にある葉脈は取り除く）．これはつぶさない．こうして出来上がったハーブのペーストに，コショウ大さじ 1 杯，砂糖大さじ 2 杯，塩小さじ 6 杯，醤油大さじ 5 杯を加えて混ぜる．さらに 1.2 kg のブタ肉のミンチを加えて，よく練る．そしてこれを最初に綺麗に洗っておいた腸に詰めると，ハーバルソーセージの出来上がりである．籠で蒸しておき，食べる直前に炭火でもう一度焼く．

次は今朝購入したアヒルを解体していく．アヒルの胸肉をつかってラープをつくるという．ラープは，炒めた肉や魚を生のハーブであえたラオスの代表的な料理である．まず胸肉を取り分け，足を取り，首を取り，頭を取る．首は縦に割って，内容物を洗い流しておく．アヒルの胸肉を細かく切る．これが重労働である．お父さんが木の切り株のようなまな板と包丁をつかって細かくミンチにしてくれる．そうしてできたアヒルのミンチを炒める．表面に火がとおったら，少し水を入れて水分を飛ばすように炒めていく．食べる直前に，レモン，塩，炒り米，ナンパー（魚醤油）といった調味料とちぎったバジル，みじん切りにしたレモングラス，ニンニク，タマネギを混ぜ合わせて仕上げる．

最後はタケノコスープ「ゲンノーマイ」である．こちらはラオスの家庭料理の代表格である［小坂 2023］．まずは今朝 P 氏宅で掘ったタケノコの下ごしらえから始まる．タケノコは皮を剥き，先は縦に，根元は輪切りにする．鍋に入れてひたひたの水を加えて，1 時間ほど茹でる．さてここで手を止めて，玄関にヤーナーン（ツヅラフジ科のツル植物）を採りに行く．ヤーナーンは，直訳すると「女性の薬」という意味だ．採りたてのヤーナーンをハサミでざくざくと切って電動ミキサーに入れていく．ミキサーの容量の 6–7 割がヤーナーンで埋まったら，同じくミキサーの容量の半分ほどの水を入れて，回す．瞬く間

写真 4　採りたてのヤーナーンをハサミで切ってミキサーにかける
（2022 年 9 月某日，筆者撮影）

に真緑のヤーナーン汁が出来上がる．ここで再び石のすり鉢の出番である．水に浸しておいた蒸す前のモチ米，トウガラシ 4–5 個をすりつぶす．先に煮ておいたタケノコに水を加えて沸かし，ヤーナーン汁を濾しながら入れる．市場で買ったカボチャ，ヘチマ，キクラゲを入れて煮る．スプーン 4 杯のパデーク（淡水魚の塩辛）の汁を濾しながら加える．最後にシソクサを入れて，味見をして完成である．

新鮮なハーブや山菜の調達を可能にするホームガーデン

家庭料理をつくる手つきを，私は美しいと感じる．勝手知ったる庭と台所における調理は，すべての動きに無駄がなく，ただの訪問者がそこへ入り込むすきはない．とりわけ美しいのは，まだ生きている植物や動物の命が摘み取られるときである．どの料理においても，ホームガーデンで摘み取られたハーブは料理の風味を決定づける重要な要素を担っている．ラオス料理において重要な食材であるタケノコも，鮮度が味の良し悪しを決める．ラオスの人は，そのことをよく知っているように思う．街中の生活においても，新鮮な材料の調達を可能にしているのは，親せきや友人間で庭の植物を互いに融通しあう人間関係である．

例外のひとつであるシソクサは，水田や畔に生える植物である［小坂・古橋 2021］．村を離れて街に暮らす人びとの多くは，シソクサを市場で買っている．バジルは，使用頻度が高く，またたくさん使用するため，市場で購入していると考えられる．急速な市場経済化の影響を受けて，市場に並ぶ野菜も変化している．かつて田んぼの野草や水辺の野草がたくさん並んでいた市場には，タイや中国からきたサイズが大きく形が揃ったニンジンやキャベツ，ニンニクなど栽培品種の野菜が山積みになっている．拡大する外食産業が，家庭料理に与える影響もあるだろう．美味しいものを楽しく飲み食いすることは，ラオスの人びとにとって一番の娯楽であるといわれる．彼らは，今後どのような食を展開していくのだろうか．

「食べられる森」をつくる実践

現在私の家は三重県いなべ市の中山間地域，立田地区にある．日本での調査のために借りた古民家である．なだらかな傾斜地に立

つ築 100 年ほどの古民家の上は荒れた藪が茂っている．古地図を見ると，持ち主が異なる 3 段の畑があったようだ．自給用の小さな耕地であったか，あるいは果樹園であったか．水田の少ないこの地区ではかつて，伊勢型紙に用いられる柿渋を桑名藩に年貢として納めていたという．いずれにせよ，今はただ家に覆いかぶさる荒れた藪である．集落の友人たちと，そこを「食べられる森」にしたいと話している．

まずは，ミョウガやサンショウ，タラノキ，フキ，ウド，ノビルなどが収穫できるように整えたい．そしてカキノキやグミ，クリやオニグルミなどの果樹を植えたい．日本でもラオスでも引き続き，実践しながら庭の植物利用をつぶさに見ていきたい．

引　用　文　献

落合雪野．2016.「採集と栽培の共存―ラオスの『在来農法』をめぐって」江頭宏昌編『人間と作物―採集から栽培へ』ドメス出版，110–129.

小坂康之．2023.「つかい，つくられるラオスの在来野菜」伊谷樹一編『つくる・つかう』京都大学学術出版会.

小坂康之・古橋牧子．2021.「ドメスティケーションの実験場としての水田―水田植物の採集と栽培の事例から」卯田宗平編『野生性と人類の論理―ポスト・ドメスティケーションを捉える 4 つの思考』東京大学出版会，284–298.

縄田栄治・内田ゆかり・和田泰司・池口明子．2008.「ホームガーデンから市場へ」河野泰之編・秋道智彌監『論集 モンスーンアジアの生態史―地域と地球をつなぐ 第 1 巻 生業の生態史』弘文堂，101–123.